

金山地区県営土地改良総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2004

平田市教育委員会

例 言

- 1 本書は平田市教育委員会が平成11年度から15年度にかけて、国庫補助事業として実施した発掘調査の概要報告書である。
- 2 調査は島根県出雲農林振興センターが平田市国富町地内で計画した金山地区県営土地改良総合整備事業（緊急生産調整推進型）に先立って実施した試掘調査と、同センターから委託を受けた中村唯史の発掘調査である。
- 3 調査体制は以下のとおりである。

平成11年度

調査主体 平田市教育委員会（教育長 生馬浩一）
事務局 生涯学習課長 荒木光延
生涯学習係 主幹（係長事務取扱） 米田敬止（4月～7月）
課長補佐（係長事務取扱） 青山栄治（8月～3月）

調査員 副主任 原 俊二
主事 曾田辰雄（調査担当）

調査指導 島根大学汽水域研究センター 客員研究員 中村唯史
島根県教育委員会 文化財課 主事 守岡正司

作業員 桑原孝栄、桑原満雄、岡富八郎、山口好悦

平成12年度

調査主体 平田市教育委員会（教育長 生馬浩一）
事務局 生涯学習課長 玉木徳信
生涯学習係 係長 山本利明

調査員 副主任 原 俊二
主事 曾田辰雄（調査担当）

調査指導 島根大学汽水域研究センター 客員研究員 中村唯史
島根県教育委員会 文化財課 文化財保護主事 池淵俊一

作業員 桑原孝栄、桑原郁郎、桑原満雄
整理作業員（土器復元）長岡公恵、梶谷留里、山岡弘枝

平成13年度

調査主体 平田市教育委員会（教育長 渡部邦男）
事務局 生涯学習課長（生涯学習係長事務取扱） 渡部一雄（4月～8月）
西尾 真（9月～3月）

調査員 主事 曾田辰雄（調査担当）

調査指導 島根県教育委員会 文化財課 文化財保護主事 池淵俊一

作業員 桑原孝栄、桑原郁郎、桑原満雄

平成14年度

調査主体 平田市教育委員会（教育長 渡部邦男）
事務局 生涯学習課長 西尾 真
生涯学習係長 長廻 毅
調査員 主任 原 俊二（調査担当）
調査指導 島根県立三瓶自然館 中村唯史
島根県教育委員会 文化財課 主事 伊藤徳広
作業員 桑原孝栄、桑原都郎、桑原満雄

平成15年度

調査主体 平田市教育委員会（教育長 渡部邦男）
事務局 生涯学習課長 西尾 真（4月～5月）
秋国英雄（5月～3月）
生涯学習係長 長廻 毅
調査員 副係長（5月～3月） 原 俊二（調査担当）
調査指導 島根県教育委員会 文化財課 文化財保護主事 原田敏照
整理作業員（トレース） 堀江五十鈴

- 4 調査にあたっては、土地所有者ならびに地元関係者の協力を得た。
- 5 トレンチのうち手掘り掘削によるものは、国土座標をとりつけているが、平成11年度から13年度は、日本測地系を用い、平成14年度は世界測地系を用いている。
- 6 榊園中の方位は磁北を示す。標高は海拔高を基準とした。
- 7 第2・4・6図中の○囲み数字は、遺物出土を表す。
- 8 放射性炭素同位体年代測定を、株式会社地球科学研究所に委託して実施した。
- 9 出土遺物及び実測図、写真は平田市教育委員会で保管している。
- 10 本書の執筆、編集は、曾田の協力を得て原が行った。

1 調査に至る経緯

調査は鳥根県出雲農林振興センター（以下、出雲農林という）が実施した平田市国富町地内における金山地区県営土地改良総合整備事業（緊急生産調整推進型）に伴う事前調査である。

事業は平成11年度から15年度にかけて実施するもので、水山区画の大形化と農道を新規に建設するものであった。事業の年次計画に先立ち、事前に補助事業で試掘調査を行い、遺跡の有無を確認し、事業との調整を図ることにした。

調査は、平成11年から13年にかけて実施した。山裾部分は人力による掘削を行い、山裾から離れた部分は出雲農林が用意した重機を用いて掘削し、両者を併用して調査を実施した。

試掘の結果を基に事業調整を行ったが、遺物が出土した地点は、いずれも盛り土部分だったことから、本調査にはいたらなかった。

また、新規に農道を建設する場所は周知の遺跡を通ることから、この場所については試掘を行った後、あらためて出雲農林と委託契約を行い平成14年度に本調査を実施した。

さらに、関連事業として平成13年度に平田市農山村振興課による農道整備事業があり、重機試掘を実施した。

2 遺跡の位置と歴史的環境

今回の調査地は、平田市街地の西側で、旅伏山の北東に広がる水田地帯である。北山山地と弥山山地の間の、谷平野から出雲平野への出口にあたっている。（第8図）

旅伏山の山裾や北山山地南側の低丘陵は古墳を中心とした遺跡の密集地帯である。しかし、調査が十分に行われていないため、各遺跡の実態は不明である。

旧石器時代・縄文時代

今まで旧石器時代・縄文時代の遺跡・遺物は未発見であったが、源代遺跡で旧石器時代と思われる玉髓製の石器や、縄文土器の破片が少量出土している。

弥生時代

弥生時代の遺跡も確認が少なく、前期から後期の遺跡では源代遺跡、中期の遺跡では美談神社2号墳の下層、中期から後期の遺跡では佐皿遺跡などが知られているのみである。

古墳時代

古墳は多数確認されている。しかし、集落跡は未確認である。古墳としては上島古墳、中村1号墳、定岡古墳群、山根垣古墳が良く知られている。

古代

奈良時代の様子は、天平5年（733）に編纂された『出雲国風土記』からうかがい知ることができる。

このあたり一帯は、出雲郡の美談郷・宇賀郡から橋縫郡沼田郷にかけての地域に属しており、今回の調査地である水田地帯が郡の境と考えられている。

また、宇加川に比定されている宇賀川は、現在、船川を経由して穴道湖に注いでいるが、「宇加川。源は同じき見椋山より出で、南に流れて入海に入る。」との記述からすると、当時は穴道湖の汀線が今より

もかなり西側にあり、直接穴道湖に流入していたと推定されることから、現在の地形とは全く違う景観であったと考えられる。

奈良時代から平安時代の遺跡としては、中村遺跡が知られている。

3 調査の概要

広範囲な事業予定地を平成11年度年から14年度までの4カ年をかけて、トレンチを51箇所設定して調査を行った。年度別のトレンチ番号は、平成11年度は第0～4トレンチ、平成12年度は第5～28トレンチ、平成13年度は第29～42トレンチ、平成14年度は第43～51トレンチである。

調査地を横断する道路及び河川をもとに便宜的に5つの地区に分け、北西から南東に向けて1区、2区、3区、4区、5区と呼称することとする。(第8図、図版1)

各調査区ごとに概説するが、出土品については特徴的な遺物のみを記述する。

I区(第1・2図、図版2)

第3(1.5m×3.0m)・4(2.0m×5.0m)・36(3.0m×4.0m)・37(3.0m×4.0m)・38(3.0m×4.0m)・39・40・41・42トレンチの、計19本のトレンチを設定した。このうち第41と第42トレンチは重機掘りである。

遺構らしきプランが確認されたのは第4トレンチで、遺物が出土したトレンチは、第3・4・36・37・38である。

第3トレンチからは移動式竈、甎、桂化木が出土している。

第4トレンチの2層・3層上面で色調の違う部分に円形のプラント確認した。さらに掘り進むと、4層上面で円形プランの中から木が出土したが、配列や大きさが様々なので、柱とは考えにくい状況である。遺物は甎が出土している

第38トレンチからは、甎や碧玉の未製品(7.44グラム)1点が出土している。

II区(第3・4図、図版2・3)

第0・2(3.0m×4.0m)・5(2.0m×4.0m)・6(2.0m×4.0m)・7(2.0m×3.0mに追加して2.0m×3.0mを拡張)・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21トレンチの、計19本のトレンチを設定した。このうち第2・5・6・7トレンチは手掘りである。

遺構は確認できなかったが、遺物が出土したトレンチは、第2・5・6・7・17・18・19・20トレンチである。

第0トレンチは上填の堆積状態を把握するために標高0mまで重機で掘り下げた。標高0.7m付近で採取した木片2片からは、放射性炭素同位体法による補正C14年代で4060±50と4050±40という測定結果が出ている。

第5トレンチからは土製支脚が出土している。

第7トレンチからは甎や赤瑪瑙(3.75グラム)1点が出土している。ここからは、土師器が重なり合う状態で出土した。畑面から約1.6m下の第5層中で、第7図の1から6までの土師器が出土している。

第20トレンチの水田面から約2mの暗灰色粘質土（砂泥）から出土した木片1片からは、放射性炭素同位体法による補正C14年代で2090±50という測定結果が出ている。

第21トレンチの標高-0.6mの有機物層から出土した有機物1片からは、放射性炭素同位体法による補正C14年代で2890±60という測定結果が出ている。

第17トレンチからは、弥生前期と思われる上器、土師器の小形丸底壺、外面がスズで黒色になった複合口縁の土師器の甕などが出土している。

第18トレンチからは、弥生前期と思われる土器が出土している。

Ⅲ区（第4・5図）

第1（1.5m×3.0m）・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35トレンチの、計15本のトレンチを設定した。このうち第1トレンチのみが手掘である。

遺構、遺物は発見できなかった。

Ⅳ区（第5・6図、図版4）

第8（3.0×5.0m）・9（3.0m×4.0m）・10（1.5m×3.0m）・46（2m×4m）・47（2m×6m）・48（1.5m×5m）・49（1.5m×6m）・50（1.5m×5m）・51（2m×6m）の、計19本のトレンチを設定した。全て手掘である。

遺構は確認できなかったが、遺物が出土したトレンチは、第8・9・10・46・47・48・49・50・51トレンチである。

この地区は周知の遺跡の中村遺跡である。この遺跡の発見時には、墨書土器をはじめ白磁や青磁なども採取されているが、今回の調査では上器は小片のうえに摩滅しており、良好な状態での出土品はなかった。また、遺構も発見できなかった。

第8トレンチからは、16世紀頃の白磁の皿が出土している。

第9トレンチからは、甌が出土している。

Ⅴ区

第43・44・45トレンチの、計3本のトレンチを設定した。全て重機掘りである。いずれも遺構、遺物は発見できなかった。

4 遺物の概要

調査を行った51箇所のトレンチの内、小片が1点でも出土したトレンチは22箇所である。ここでは実測した10点の土器について記述する。(第7図)

1から7までは土師器で、8から10までは須恵器である。

1から6までは、Ⅱ区の第7トレンチから重なり合うようにして出土した甕である。いずれも複合口縁で、1と3は口唇部が平坦である。2と4は口唇部は丸くおさまる。5は口唇部は外反する。

1は、口径28.6cmを測る。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。焼成は良好で、色調は外面が灰褐色、内面は白褐色である。外面には波状文を施す。

2は、口径25.4cmを測る。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。焼成は良好で、色調は内外面ともに白褐色である。外面には2本の平行線文の間に刺突文を施す。

3は、口径22.0cmを測る。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。焼成は良好で、色調は内外面ともに白褐色である。外面には平行線文と波状文を施す。

4は、口径18.8cmを測る。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。焼成は良好で、色調は内外面ともに灰褐色である。外面には二段の刺突文を施す。

5は、口径17.4cmを測る。胎土は密で1mm以下の砂粒と金雲母を含む。焼成は良好で、色調は外面が灰褐色で、内面は白褐色である。

6は、底部である。底径4.5cmの平底である。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。焼成は良好で、色調は外面が赤褐色で、内面は灰褐色である。

7は、Ⅱ区の第20トレンチから出土した小形丸底甕で、球体の体部に外反する口縁部がつく。口径9.8cm、高さ7.1cmを測る。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。焼成は良好で色調は外面が灰褐色、内面が白褐色である。

8は、Ⅱ区の第6トレンチ出土した坏で口径11.4cm、高さ4.3cmを測る。底部はヘラ切り後、未調整である。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。焼成は良好で色調は灰色である。

9は、Ⅰ区の第36トレンチから出土した高台付の皿で、口径20.0cm、高さ3.0cmを測る。底部は回転糸切りである。胎土は密で1mm程度の砂粒を含む。焼成は良好で色調は灰色である。

10は、Ⅰ区の第3トレンチから出土した甕で、口径11.0cm、残存高5.5cmを測る。胎土は密で1mm以下の砂粒を含む。焼成は良好で色調は青灰色である。

5 まとめ

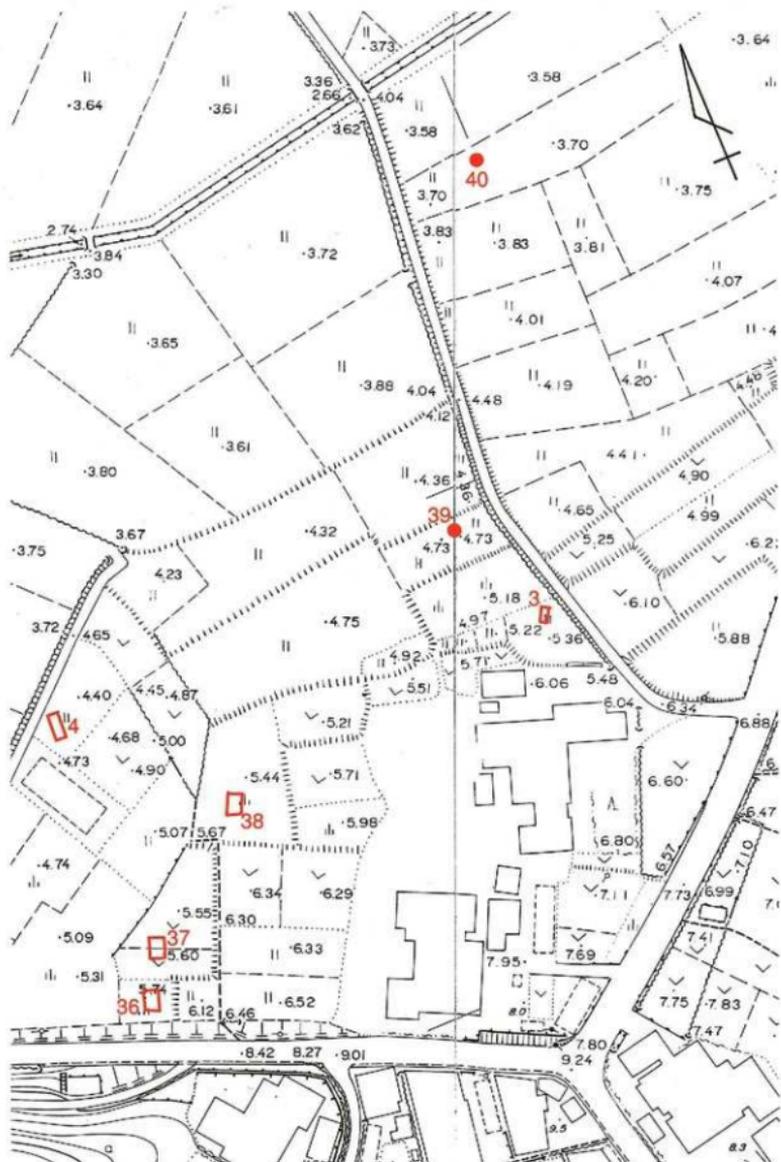
今回、金山地区の土地改良事業に伴い、広大な範囲の水田地帯を対象に試掘調査を実施した。一つ一つのトレンチが小さく遺構は十分に確認できなかったものの、遺物は弥生時代から中世時代頃にいたる土器を確認することができた。特に従来未確認であった移動式甕、甕、土製支脚などの煮沸具が出土したことは、周辺に集落が営まれたことをしめし、今後、住居址の発見が期待される。

また、Ⅳ区の中村遺跡であるが、今回の調査では遺構は確認できず、遺物も上層の小片が少量出土したにすぎなかった。第46トレンチの5層と第48トレンチの5層の下部には細砂が約2cm堆積している。これは、丹堀川が氾濫した時に堆積したものと考えられ、氾濫などに見られる特徴的な堆積である。本

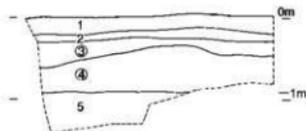
来は残りにくいものであるが、軟弱な土壌の上に堆積したために、良好な状態で残存したと考えられる。

このような細砂や小礫が堆積している状況などからすると、この辺りは安定した土地と思われる状態ではなく、出雲国風土記の記述にある入海（現在の宍道湖）の汀線やその周辺の湿地などの不安定な土地だったと想定できる。したがって、今回の調査地で出上している遺物は、丹波川などによって上流から運ばれ、再堆積した可能性が考えられ、遺跡の中心は旅伏山寄りだったと考えられる。

今回の調査地である旅伏山山麓一帯は従来から遺跡の密集地帯として注目されているところであるので、今後、このような調査を積み重ねていくことにより、地域の歴史が徐々に明らかになっていくものと考えられる。



第1図 I区 トレンチ配置図 (S=1/1000)



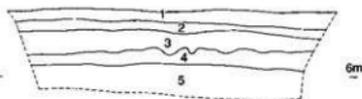
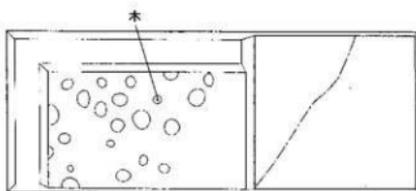
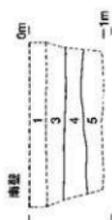
第35トレンチ(南壁)

- 1 耕作土
- 2 灰褐色粘質土(赤土)
- 3 赤褐色粘質土(粘性強い)
- 4 赤褐色粘質土(砂礫を多く含む)
- 5 赤褐色砂礫(礫礫多く含む、砂も多い)



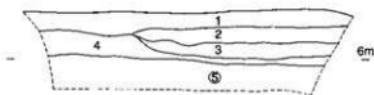
第4トレンチ

- 1 耕作土
- 2 赤褐色粘質土(部分的に着緑灰色のかたよりあり、部分的に褐色土層)
- 3 赤褐色粘質土(着緑色の粘質土が層状に付入っている)
- 4 赤褐色粘質土(炭素入、かたしまっている。黄色の粘土のかたまりが混じる)
- 5 赤褐色粘質土(粘性が強い)



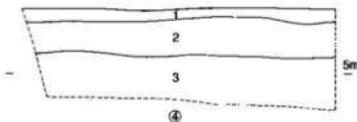
第36トレンチ(北壁)

- 1 表土
- 2 赤褐色粘質土
- 3 赤褐色粘質土(砂多く硬い)
- 4 灰褐色粘質土(粘性強い)
- 5 赤褐色粘質土(砂多)



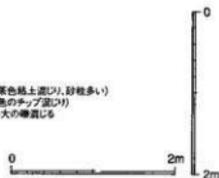
第37トレンチ(北壁)

- 1 表土(耕作土)
- 2 赤褐色粘質土(赤褐色粘土混じり)
- 3 灰(茶)色粘質土
- 4 灰(白)色粘質土(粘性強い)
- 5 赤褐色粘質土

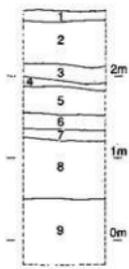


第38トレンチ

- 1 表土
- 2 赤褐色粘質土(赤褐色粘土混じり、砂多)
- 3 赤褐色粘質土(赤色のチップ混じり)
- ④ 3層に、さらに、赤褐色の礫混じる

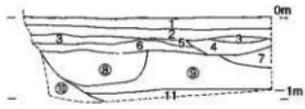


第2図 Ⅰ区 トレンチ土層図 (S=1/60)



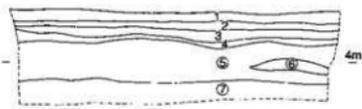
第01レンヂ (北壁)

- 1 耕作土
- 2 黄灰色粘質土 (粘性低、砂、小礫を少量含む、植物(根?)多数、径約5cm)
- 3 灰黄色粘質土 (砂を含む、粘性低い、植物の根や草根に沿って微分高さ、小礫が多い、強風化層)
- 4 灰黄色粘質土 (礫質、砂少量、炭少ない)
- 5 暗褐色粘質土 (4層より粘性高い、植物の根少ない、砂やや含む)
- 6 暗褐色粘質土 (粘土層、礫含む、底に向かって下る)
- 7 黄褐色粘質砂 (50cm程度の厚さ、所々密集)
- 8 灰黄色粘砂 (粘土分やや含む、全体に均質)
- 9 暗褐色シルト質砂 (全体に均一)



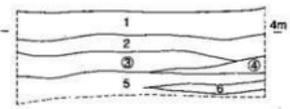
第02レンヂ (東壁)

- 1 耕作土
- 2 灰黄色粘質土 (床土)
- 3 暗褐色粘質土 (礫を多量に含む、褐色強い、ほろろ状の塊あり)
- 4 黄灰色粘質土 (褐色しりの土、粘土含む)
- 5 黄灰色粘土 (細粒)
- 6 黄灰色粘質土 (4層と同じか、やや粘土が粗く、有機物含む)
- 7 暗灰色粘砂
- ① 暗褐色粘質土 (木質を含む)
- ② 暗褐色粘質土 (粘土大の礫を多く含む)
- ③ 暗褐色粘質土 (砂、粘土を多く含む、散質)
- ④ 暗褐色粘質土 (砂、粘土を多く含む、散質)
- ⑤ 暗褐色粘砂 (礫より、礫層が少ない)
- ⑥ 暗褐色粘質土 (粘性強く、10cm程度の礫を含む)



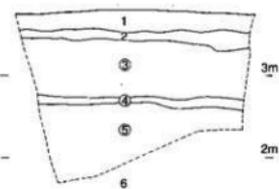
第05レンヂ (北壁)

- 1 耕作土
- 2 耕作土 (床土、灰色がかった茶)
- 3 暗褐色粘質土 (砂層混入、硬くしまっている)
- 4 暗褐色粘質土 (礫多い、地山のように硬く、礫と砂のかたまった感じ)
- ① 黄灰色粘質土 (粘土が細かく粘付強い、炭と礫をわずかに含む)
- ② 黄灰色粘砂 (炭と砂、礫を含む)
- ③ 暗褐色粘質土



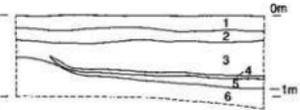
第06レンヂ (北壁)

- 1 耕作土
- 2 黄灰色粘質土
- ① 黄灰色粘砂
- ② 黄灰色粘質土 (礫砂を含む)
- ③ 暗褐色粘質土
- ④ 暗褐色粘質土 (4層より、多く含む)



第07レンヂ (東壁)

- 1 耕作土
- 2 暗褐色土 (灰上)
- ① 黄灰色粘質土
- ② 黄灰色粘質土 (礫多い)
- ③ 暗褐色粘質土
- ④ 暗褐色粘質土
- ⑤ 暗褐色土 (石灰しり)

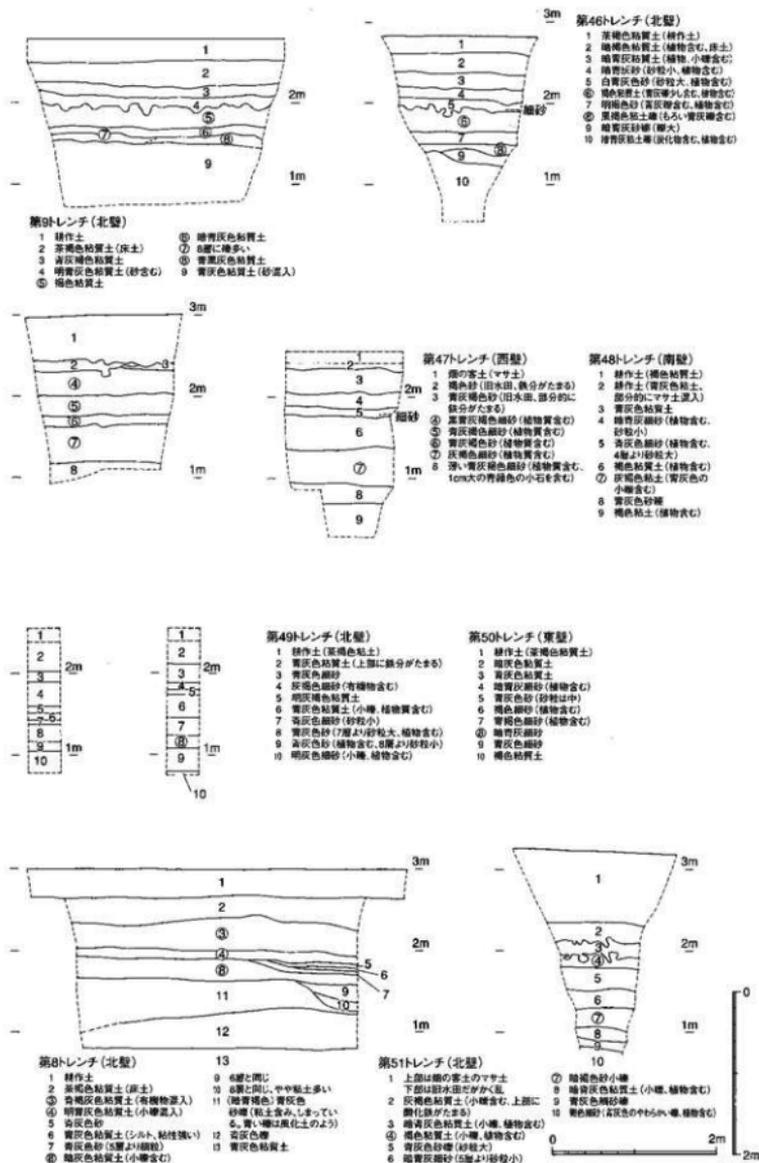


第08レンヂ (北壁)

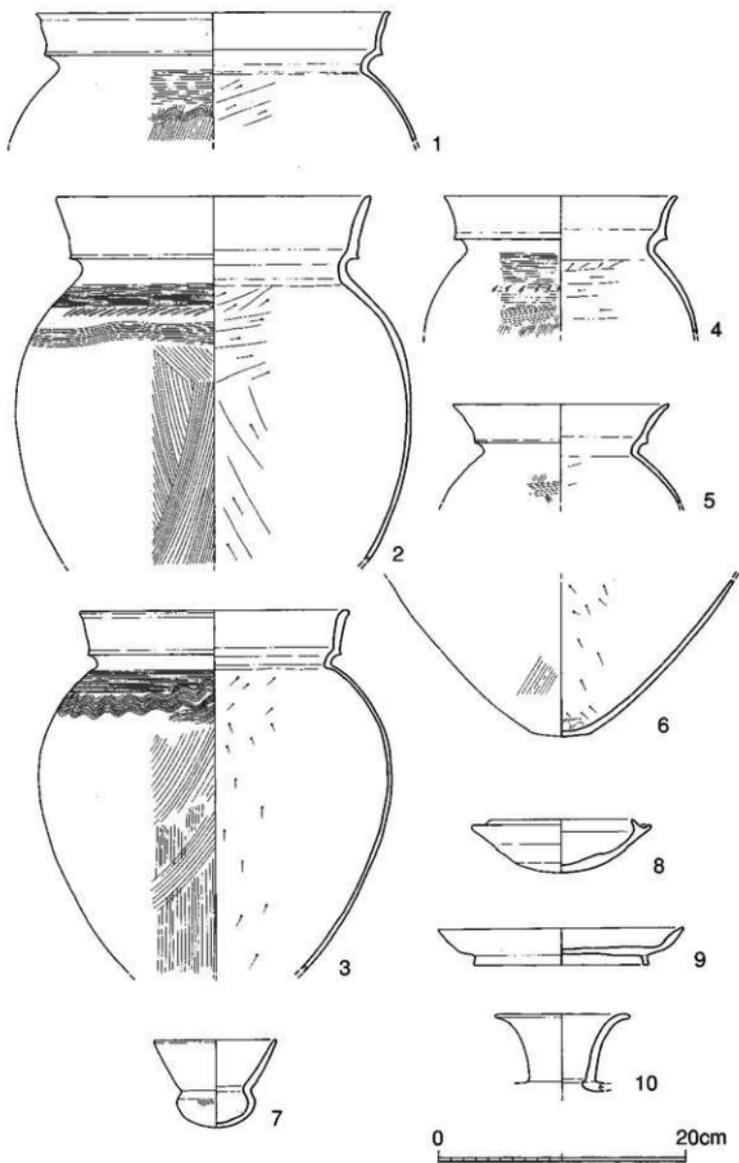
- 1 耕作土
- 2 黄灰色粘質土 (床土)
- 3 黄灰色粘砂 (植物繊維多く含む)
- 4 暗褐色粘質土 (粘性強い)
- 5 暗褐色粘質土 (植物繊維多く含む、礫混入)
- 6 黄灰色粘土 (粘土に少し大の石を含む)



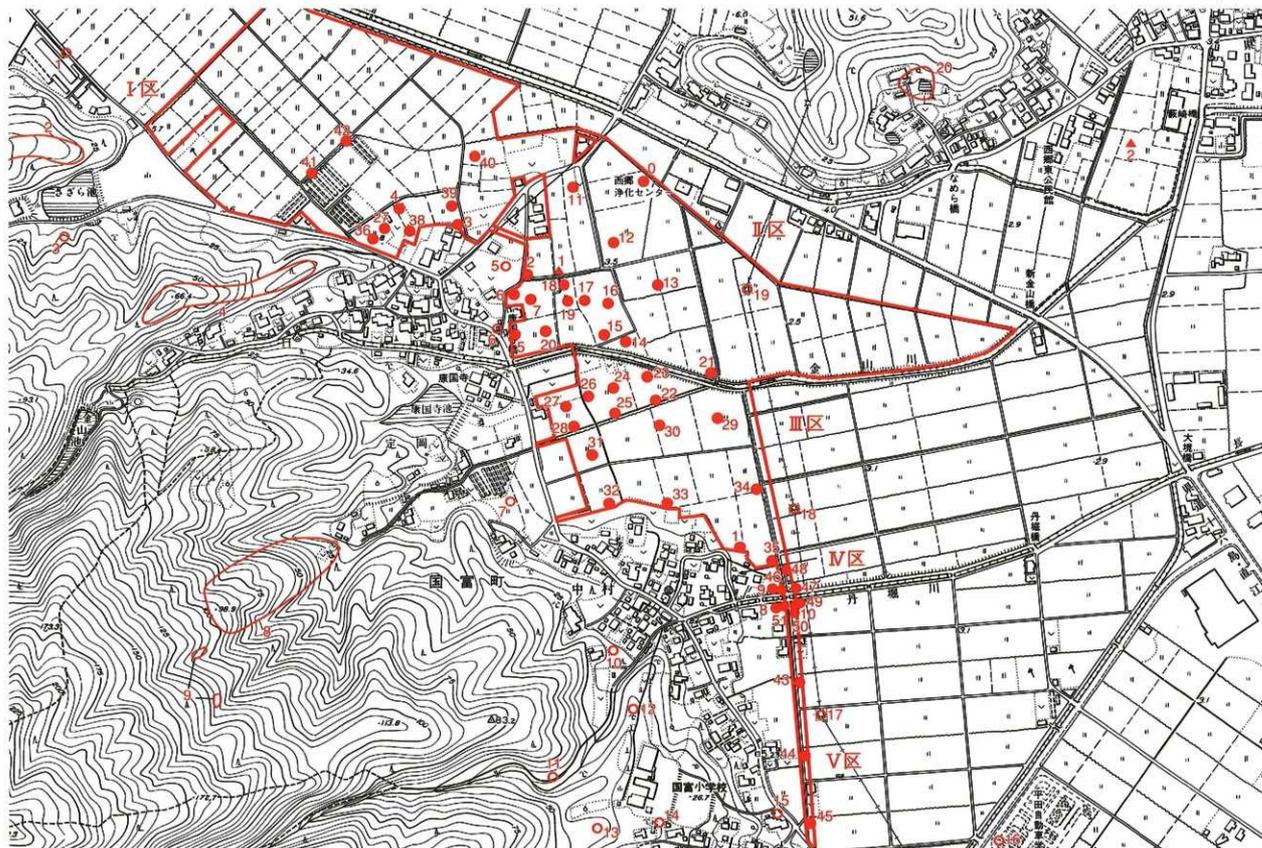
第4図 II・III区 レンヂ土層図 (S=1/60)



第6図 IV区 (中村遺跡) トレンチ土層図 (S=1/60)



第7图 出土器物实测图 (S=1/4)



- 1 左皿遺跡
- 2 左皿古墳群
- 3 さざら池南古墳
- 4 左皿南古墳群
- 5 湯沖岩神社跡
- 6 国富七塚 (塚之堂塚)
- 7 国富七塚 (鳥居松塚)
- 8 定岡谷古墳群
- 9 定岡谷上横穴群
- 10 中村1号墳
- 11 中村横穴
- 12 山辺神社古墳
- 13 国富小学校裏古墳
- 14 中屋荒神古墳
- 15 国富七塚 (真加地の堂塚)
- 16 源代遺跡
- 17 源代遺跡 (第4調査区)
- 18 源代遺跡 (第5調査区)
- 19 源代遺跡 (第6調査区)
- 20 西々郷廃寺

- 1~51 トレンチ番号
- ▲ 1 平成13年度の工事中に遺物が出土した地点
- 2 平成13年度にハンドボーリング調査地点

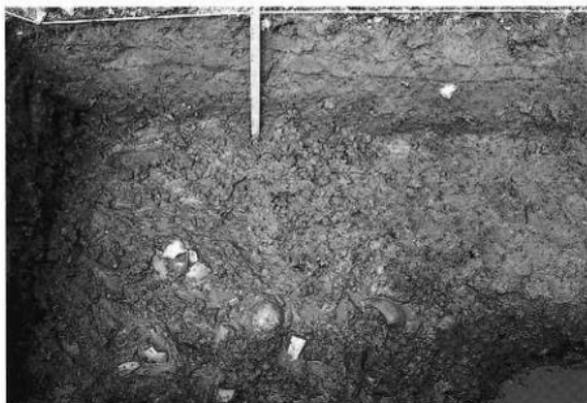
第8図 周辺の遺跡とトレンチ配置図 (S=1/5000)



1 I・II・III区 東南から



2 IV区 (中村遺跡) 東から
手前の交差点周辺



1 第3トレンチ



2 第4トレンチ



3 第0トレンチ

1 第7トレンチ



2 第7トレンチ



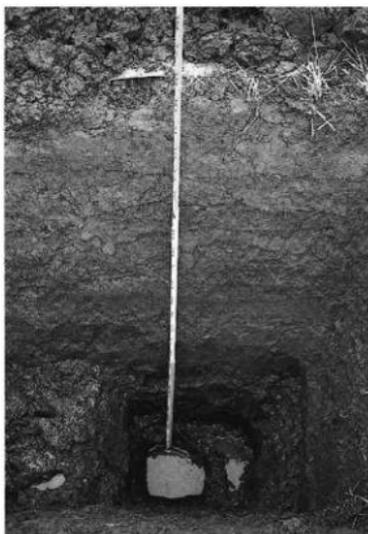
3 第7トレンチ



図版 4



1 第9トレンチ



2 第10トレンチ



3 第51トレンチ

報告書抄録

委託書名	全山地区農地改良総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書				
副書名	平田市埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ名	第11集				
編著者名	原 俊一				
編纂機関	平田市教育委員会				
所在地	〒631-0001 鳥根県平田市平田町2791-1 TEL 0853-63-3574				
発行人	平田市教育委員会				
発行年月	平成16年(2004)3月				
所収遺跡名	所在地	市町村	道路 番号	調査面積	調査年月日
中村遺跡(注)	鳥根県平田市鳥根町		32208		昭和・平成
調査原因	全山地区農地改良総合整備事業				
所収遺跡名	種別	主要時代	主要遺構	主要遺物	特記事項
中村遺跡(注)	散布地	弥生時代・ 中世時代		弥生土器・銅器・土器 鉄器・石器等	

平田市埋蔵文化財調査報告書 第11集

全山地区農地改良総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行：平田市教育委員会

発行日：2004年(平成16)3月

印刷所：株式会社 龍光社